

県立真壁学校【総合的な探究の時間の全体計画】（令和7年度）

総合的な探究の時間の第1の目標

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。
(2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
(3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

学校の教育目標

文武両道の校風の下、すべての教育活動をととして、教養と豊かな人間性を培い、地域に広く貢献する人間をはぐくむ。

各学校で定める目標と育成する資質・能力

探究の見方・考え方を働かせ、地域や社会の人、もの、ことに関わる総合的な学習を通して、自己の在り方生き方を考えながら、協働的な活動を通して課題の発見と解決ができるようになるために、以下の資質・能力を育成する。

- (1) 探究の見方、考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し、解決していくための資質能力を育成する。
(2) 地域を探究することで、地域を取り巻く環境を理解する。
(3) 地域と協働し、地域に貢献できる取り組みを行う。
(4) 社会性や主体性、社会奉仕の精神や態度を養う。

総合的な探究の時間の学習評価

左記の資質・能力について、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の観点を踏まえながら、以下のことに留意して学習評価を行う。

- (1) 自分自身の周囲の事象から必要な課題を発見し、課題として認識できている。必要な課題と適切と思われる解決結果に向かって、解決の方法について考え、具体的な方策が計画できる。
(2) 実行した課題解決について、適切な評価を導き出し、さらにより方策について考えることができる。
(3) 計画した課題解決のための方策を集団または個人として実行できる。よりよい課題解決方法について、可能な方策を実行に移すことができる。

生徒の実態

(生徒指導) 基本的な生活習慣の確立や規範意識について、全体的には改善しているものの、一部に課題の多い生徒が見られる。
(学習指導) 基礎的な学力が身につけていない生徒がおり、学力差が大きくなっている。そのため、授業の理解度も異なり、授業に取り組む意欲や態度に差が見られる。
(進路指導) 自らの将来の人生設計や進路に対する意識に課題がある。そのため、進路実現の実現が未達成の生徒が見られる。
(特別活動) 学校行事にはよく参加しているが部活動や生徒会活動、ホームルーム活動が活発ではない。このためリーダーシップを発揮する生徒や場面が少ない。キャリアパスポートは円滑に導入できている。

生徒の発達をどのように支援するか
○配慮を必要とする生徒への指導

- ・特別支援教育委員会を基盤とした組織的な対応
・関係機関等(出身中学校、県立協和特別支援学校、スクールカウンセラー等)との連携の強化
・校内研修会及び巡回相談
・ケース会議の充実

目指す生徒の姿

地域を知り、地域と連携し、地域に貢献し、地域の産業を支えるプロになる。
(1) 地域を知り、地域と連携し、地域に貢献することをねらいとした学習活動全体の取組を通し、深い教養と豊かな人間性を身につけた生徒。
(2) 地域連携活動や校外学習を通し、地域の歴史・自然・文化に触れることで見識を広げるとともに、販売活動や体験活動で地域住民(幼少者から高齢者まで)と接することで思いやりの心と豊かな情操心をもった生徒。

各学校が定める内容(目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題を通して育成を目指す具体的な資質・能力)

- 1学年 「自分を知り、学校を知り、地域を知る」プロジェクト(自己理解・地域理解)
2・3学年 「地域と連携する、地域に貢献する」プロジェクト(地域連携・地域貢献)

探究課題を通して育成を目指す具体的な資質・能力

- (1) 知識及び技能
・自己の強みと課題の理解およびライフプランの作成
・本校の特色と自身の所属学科の特長を知ること。
・地域には、それぞれの自然環境や伝統・文化があり、それを大切に生活していること。
・様々な立場の人が支え合い、協力合っていること。
・文化や伝統、自然を生かした新しい価値を生み出していること。
(2) 思考力、判断力、表現力等
・課題の設定(より複雑な問題状況の中から適切に課題を設定し、生徒が見通しや仮説を立て、検証方法を考え、計画を立案する。)
・情報の収集(目的に応じて、多様な方法からより効率的・効果的な手段を選択できるようにする。)
・整理・分析(より深い分析や、より確かな根拠付けが行われるよう質を高めていくこと。)
・まとめ、表現(相手や目的に応じてより分かりやすく伝えるように、より論理的で効果的な表現を工夫したり、学習を振り返る中で、より物事や自分自身に関して深い気付きとなるような内省的な考え方が深まるようにしたりしていくこと。)
(3) 学びに向かう力、人間性等
①自分自身に関すること
・探究を通して、自己を見つめ、自分の個性や特徴に向き合おうとする。(自己理解)
・自分の意思で真摯に課題に向き合い、解決に向けた探究に取り組もうとする。(主体性)
・探究を通して、自己の在り方生き方を考えながら、将来社会の理想を実現しようとする。(将来展望)
②他者や社会との関わりに関すること
・探究を通して、異なる多様な意見を受け入れ尊重しようとする。(他者理解)
・自他のよさを認め特徴を生かしながら、協働して解決に向けた探究に取り組もうとする。(協働性)
・探究を通して、社会の形成者としての自覚をもって、社会に参画・貢献しようとする。(社会参画)

学習活動、指導方法等

[学習活動]

- ・1年生は全学科、晨光タイム(1単位)での位置付けとなる。学科ごとの活動、ミックスホームルームでの活動を、活動内容に応じて適切に設定し、自己理解と地域理解を探究の中心課題とする。
・2・3年生は地域連携・地域貢献を探究課題とする。
・2・3年生の普通科は「晨光タイム」として各学年1単位ずつ、農業・環境緑地科・食品化学科については、3年生で「課題研究」2単位で代替する。
・普通科2・3年生は合同での活動とする。
・1月の学習成果発表会を節目とした単元展開を工夫する。

[指導方法]

- ・生徒の課題意識を連続的に発展し、深化させる支援
・個に応じた指導の工夫
・諸感覚を駆使する体験活動の重視
・協働的な学習活動の充実
・教科・科目等との関連的な指導の重視
・対話を中心とした個別支援の徹底
・言語活動による体験の意味の自覚化と深化 など

[学習の評価等]

- ・ポートフォリオを活用した評価の充実
・観点別学習状況を把握するための評価規準の設定
・個人内評価の重視
・指導と評価の一体化の充実
・学期末、学年末における指導計画の評価の実施
・授業分析による学習指導の評価の重視
・学校評議員会における教育課程に対する評価の実施 など

指導体制(環境整備、家庭・地域との連携)

[指導体制]

- ・運営委員会における校内の連絡調整と支援体制の確立
・本校のチャレンジプロジェクトとの連携
・桜川市役所及び桜川市教育委員会との校外連携体制
・ティーム・ティーチングの日常化
・ワークショップ研修の重視
・担任外の教職員による支援体制の樹立 など